

「新聞を読むこと」を習慣づける活動の展開

～新聞を生活の一部にするためのモチベーションアップサポート～

高千穂町立上野中学校 教諭 池田恭平

1. はじめに

本校は、全校生徒22名（1年4名、2年13名、3年5名）、常勤職員10名の小規模校である。

小学校と同じ校舎で活動しているということもあり、清掃や昼休みの時間など日常的に小学生と交流する場面が多く、運動会や文化発表会など合同で行う学校行事もある。

また、JRC（青少年赤十字）活動の一環として、毎日朝の清掃活動に取り組み、「上野流あいさつ」ののびりを掲げ、全校で「自分に誇りを、友に誇りを、学校・地域に誇りをもち子どもたち」の育成に励んでいる。

さらに、本校は地元の伝統文化である上野白太鼓踊り・神楽を継承しており、夏休みから地域の方を講師で招き、文化発表会に向けて練習を行う。本番では、小学生や保護者、地域の方に向けて披露し、伝統文化を受け継ぐ担い手としての学習も総合的な学習の時間を中心として計画されている。

本校は令和6年度末をもって閉校することとなった。生徒たちは、これから自分たちが小学生や地域にできることはないか、生徒会を中心に考えを巡らせ、議論を重ねている。

本校が今年度 NIE 教育の実践指定校として、どのように活動を展開していったかを報告していく。



2. 取組の基本方針

本校の現状として、全校生徒へ「新聞を自分から読んでいるか」調査したところ、22名の内、8名（約36%）が自分から読んでいると回答した。積極的に新聞を読んでいる生徒が、およそ3人に1人という状況であるため、今回の取組では、**「NIE 教育の取組の前よりも、自分から新聞を読む生徒が増えている」**ことを目標に活動を展開した。また、本校では令和3年度より主題研究として「ICT 教育」の推進・活用に力を入れている。今回の実践においても、一部の活動において、**ICT を活用しながら NIE 教育を展開した。**

したがって、本校の NIE 実践において、
・積極的に新聞を読む生徒が増える
・ICT を活用した活動を展開する
という2点を基本方針とした。

3. 実践事例

本校では、9月から12月まで宮日・朝日・読売・毎日・日経の5社の新聞を全校で購読した。その際、前項の基本方針をもとに、以下の活動を行った。

（1）宮日読者室による出前授業の依頼

NIE 教育の活動に入る前段階として、令和5年7月12日（水）、宮日読者室の方を講師でお招きし、記事の構成や新聞の読み方に関する講義をしていただいた。生徒は1人1紙ずつ渡された新聞を見ながら、熱心に話を聞いていた。



（２）共通新聞記事探しゲーム「新聞神経衰弱」

「朝一番に新聞を読む」習慣をつけるための取組として、「上記の５社の新聞に書かれている記事で共通する内容が書かれたものを、ゲーム感覚で探す」という活動を行った。

ルールとして、

- ①「共通する記事が掲載された新聞社が多いほど、得点が高い」というポイント制の導入（２社⇒１ポイント、３社⇒２ポイント、４社⇒３ポイント、５社⇒５ポイント）
- ②Microsoft Teams を活用して、共通する記事の報告、ポイントの付与を行う。
- ③見つける記事は早い者勝ちで、報告された記事はそれ以降ポイントの対象にならない。

という３点を設定し、ゲーム性を高めた。期間は９月上旬～９月下旬まで行った。

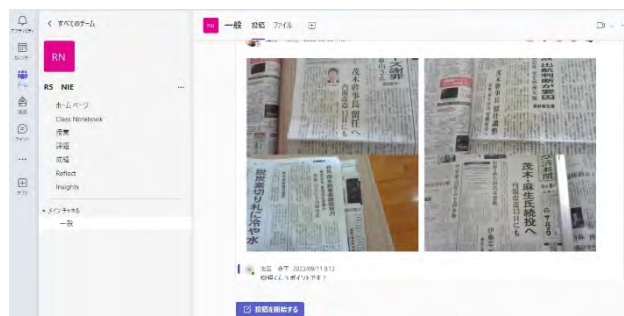
活動を設定した効果として、

- ・登校してすぐに新聞を読む生徒が多かった。
- ・地元の企業である宮日だけでなく、他社の新聞

にも興味を持つ生徒が増えた。

・共通する記事を探すことで、昨今の時事問題に詳しくなった。

といった効果が現れ、新聞を積極的に読もうとする生徒の育成、新聞を読むことの習慣づけに大きな効果があった。



（３）「グッときたニュース」の紹介

「新聞を読む習慣をつける」の次の段階として、「様々な記事から興味のある記事を見つける」という活動を設定することで、積極的に新聞を読むことにつながるのではないかと考えた。そこで、５社の新聞から、興味を引かれた（心にグッときた）記事を他の生徒に紹介するという取組を行った。紹介の方法として、原稿用紙一枚に記事の内容、興味を引かれたポイント、記事を読んだ感想などをまとめ、給食時の放送で１人ずつ紹介した。放送時に生徒は緊張していたが、自分の紹介したい記事を児童生徒に向けて堂々と発表していた。以下のような効果が見られた。

- ・他の生徒の紹介を聞き、記事の掲載されている新聞を読み返した生徒が多かった。
- ・新聞を幅広く読むようになった生徒が増えた。

このような効果から、積極的に新聞を読む生徒が増えたといえる。

また、学校放送を活用したこともあり、教師からの賞賛の声もあった。生徒は活動に満足しているように思う。



(4) 時事ニュースクイズの作成

3年生の面接対策と1・2年生の時事問題への関心を高める取組として、新聞記事からクイズを作成する「時事ニュースクイズ」という活動を行った。活動内容は、

- ・1・2年生が5社の新聞から第1面の記事の内容や、宮日の地域の記事で特色のあるものを選び、クイズを作成する。

- ・作成したクイズに3年生が回答するというものである。

クイズの問題はTeamsで作成・公開し、一人一台支給されているタブレットPCを起動すればい

つでも見られるようにした。

クイズの成果もあり、3年生は社会的な問題や地域の問題への関心が高まり、問題を作成した1・2年生にも、その傾向が見られた。

次年度は、学校放送でクイズを行うことで、児童にも時事情報の提供を行うことを視野に入れた。



③毎年エアフェスタが行われている新富町の基地はどこでしょう？



(5)「14歳の君へ」への感想文投稿

宮日では、毎月各界の著名人が県内の中学生に向けてのメッセージを寄稿している「14歳の君へ」という記事があり、NIE実践校を中心とした県内の中学校から、数名の感想文を掲載するというコーナーが設定されている。

本校では、この記事への投稿を全校で1年間継続し、毎月数名の感想文が掲載されていた。今回のNIEの取組で一番生徒の意欲を感じられたのはこの取組である。

初めのうちは、文章を書くという活動に抵抗があり、文章量も少なかった生徒が、年度の後半で感想文が掲載され、「自分の名前が掲載される」と

いう喜びを味わったことでさらに記事を読み込み、熱のこもった文章を書くという様子が見られた。掲載された文章は、校長室前に掲示され、職員室でも周知されたことで、感想文を書いた生徒は様々な先生から「いい感想文だったよ」「すごいね」などの賞賛の声を浴びた。本校の先生方の活動への理解や声かけの効果も相まって、この活動が一年間、モチベーションを落とすことなく継続できたように思う。



3. まとめと今後の課題

今回、様々な NIE の取組を通じて、「新聞を家や学校で自分から読むようになった」と答えた生徒が、22名中17名(約77%)に増加した。積極的に新聞を読む生徒が増えたといえる。

また、ICT を活用した取組も設定し、どこでも誰でも活動できる場を設定できた。

今回の取組を通じて感じたことは、新聞を積極的に読ませることで、「生徒にどんなメリットが生まれるか」を考えながら活動を設定すると効果が得られやすいということである。

最初は共通した記事を見つけたことをポイントとして数値化することで、積極的に活動できているかをこちらが把握しやすくした。また、生徒自体もゲーム性を感じながら活動したため、楽しく新聞を見ることができた。

しかし、新聞は「世の中でどんなことが起きているか」を知らせるための媒体であるため、記事の内容を読み取り、読み手が何を感じるか、どう考えるかという活動が積極的に新聞を読むということにつながると思われる。

その活動として、グッときたニュースの紹介や「14歳の君へ」の感想文投稿を行い、積極的に新聞を読むことにつなげた。様々な出来事や著名人の考えに触れることで、「現代社会の中でどう生きるべきか」という人生観の育成につながったのではないかと考える。

新聞を積極的に読むことで、新聞という存在を中学生に知識を授ける「情報媒体」という役割だけでなく、考え方や心を育てる「教育媒体」という役割にも昇華させ得ることを、今回の NIE 教育で実感できた。

今後の課題として、「より多くの生徒が新聞を通じて自分の考えを表現できる」ことを目標にして NIE 教育を展開していきたい。

令和6年度をもって、本校は閉校することになった。母校がなくなることへ不安を募らせている生徒も多い。今まで育ってきた母校への思いや感謝、学校内だけでなく学校外に発信することで、少しでも多くの方に中学校の存在を示し、自分たちの足跡として残していきたいと考えている。

そのために、閉校までに子どもたちの学校にかける思いを表現できるよう、国語科の教員として指導を重ねていきたい。また、地元の新聞社の記者と連携を取り、取材の機会を伺いたい。

